

第2部 福島県卓球協会設立70周年記念事業

第1節	記念事業実行委員会の設置と活動	155
-----	-----------------------	-----

第2節	記念事業の概要	160
-----	---------------	-----

・11月6日(土)9:30～

・郡山市中央公民館

【第3回実行委員会】

○日 時 平成11年11月6日(土)10:00～

○場 所 郡山市「郡山市中央公民館」

○内 容

- 1 70周年記念事業の準備計画について
 - ① 式典・祝賀会について
 - ② 記念品について
 - ③ 感謝状贈呈・功労者表彰候補者について
- 2 記念誌の編集・原稿・校正・頒布計画について

第2節 記念事業の概要について

本協会の設立70周年記念の事業計画については、実行委員会の設置の項で述べているがその事業は次の通りである。

『記念事業』

- 1 記念式典
 - 2 記念祝賀会
 - 3 シンボルマークの公募作成と協会旗作製
 - 4 記念誌「福島県卓球協会70年史」の編纂刊行
 - 5 感謝状の贈呈と功労者表彰
- 記念事業の具体的な内容は、次の通りである。

〈記念式典〉

○日 時 平成11年12月11日(土)11:00～

○会 場 福島市「杉妻会館」

～式典次第～

- 1 開式のことば
- 2 「福島県スポーツの歌」斉唱
- 3 感謝状贈呈
- 4 表 彰
 - ・功労者
 - ・シンボルマーク入選者
- 5 あいさつ
 - ・福島県卓球協会長 西郷 徹夫
- 6 来賓祝辞
 - ・日本卓球協会長 飯田 亮様
 - ・福島県体育協会長 佐藤栄佐久様
 - ・福島県教育委員会教育長 杉原 陸夫様
- 7 祝電披露
- 8 受賞者代表謝辞
- 9 「若い力」斉唱
- 10 閉式のことば

(感謝状の贈呈と功労者表彰)

本協会の設立70周年記念式典を挙行するにあたり、永年本協会の発展に尽力された方々に対し、その功績を称えるとともに敬意と謝意をこめて感謝状を贈呈する。

また、本協会の発展と卓球競技の普及振興に貢献した方々を表彰し、その功績を称える。

「感謝状」

★**日本卓球協会感謝状**

三浦 勝美 (名誉会長)	土屋 弘 (顧問)	宇賀神喜嗣 (顧問)
大橋 征 (顧問)	佐藤 昭典 (顧問)	伊東 守信 (顧問)

★**福島県卓球協会感謝状**

信沢 要 (顧問)	壁谷 之夫 (顧問)
松崎 俊一 (顧問)	浜名 秀雄 (元 顧問)
斎藤 正雄 (元 副会長)	後藤 英子 (県家庭婦人連盟名誉会長)
加藤栄治郎 (元 県北支部副支部長)	宗像 次男 (元 県中支部長)
小幡 次郎 (元 県北支部長)	及川 邦夫 (元 県南支部長)
相沢 辰男 (元 相双支部長)	渡部 洋一 (元 県高体連副委員長)
菅野 源吉 (元 会計・監査)	渡部 信行 (元 会計・監査)
山崎 勲 (元 いわき支部理事長)	吉沢 昭夫 (元 いわき支部理事長)
雨澤 哲弘 (元 いわき支部理事長)	佐久間 直 (元 県中支部理事長)
那須 喜明 (元 県中支部理事長)	滝沢 昌昭 (県南支部長)
横山 廣昭 (元 県南支部理事長)	薄井 充良 (元 県南支部理事長)
今泉 一二 (元 県南支部理事長)	堀川 清光 (相双支部長)
小野 哲男 (元 県北理事長)	鎌田 尊 (元 相双支部理事長)
横山 実 (元 相双支部理事長)	平出 雄次 (元 会津支部理事長)
千葉 恒夫 (元 会津支部理事長)	吉原 清隆 (あづま卓球スポーツ少年団)

「功労者」

〈県北支部〉

嶋原 勇 (元 県北支部事務局長)	藤沼 賢二 (二本松市卓球協会顧問)
安斎 洪基 (二本松市卓球協会顧問)	服部 保治 (二本松市卓球協会会長)
大波 一明 (二本松市卓球協会)	

〈県中支部〉

柳田 芳郎 (郡山市卓球協会)	猪狩 修一 (郡山市卓球協会)
飛田 徹 (郡山市卓球協会)	根本 孝司 (郡山市卓球協会)
網田 雄治 (郡山市卓球協会)	

〈県南支部〉

檜村 義照 (元 須賀川市卓球協会会長)	岡部 良 (石川町卓球協会会長)
荒明 健二 (石川町卓球協会)	鈴木 規之 (石川町卓球協会)
鈴木 理平 (白河市卓球協会)	堀田 賢治 (白河市卓球協会)
北村 武宜 (白河卓球協会)	

〈会津支部〉

星 善六 (会津若松市卓球協会会長)	松崎 繁 (喜多方市卓球協会会長)
水戸 昇 (喜多方市卓球協会)	安斎 驟遯 (会津若松市卓球協会)
五十嵐久夫 (喜多方市卓球協会)	滝口 静枝 (会津若松市家庭婦人卓球連盟会長)
岩田 弘 (喜多方市卓球協会)	渡部 栄一 (喜多方市卓球協会)
小荒井俊雄 (喜多方市卓球協会)	外山 義彦 (喜多方市卓球協会)
渡部まつ子 (喜多方市卓球協会)	田部 幹夫 (喜多方市卓球協会)
佐瀬仁之助 (喜多方市卓球協会)	小林 義栄 (喜多方市卓球協会)
五十嵐修二 (喜多方市卓球協会)	佐藤 誠 (喜多方市卓球協会)
菊地 正雄 (会津若松市卓球協会)	芳賀 善光 (会津若松市卓球協会)
佐藤 一 (猪苗代町卓球協会)	橋谷田英実 (会津若松市卓球協会)

小澤 品利（会津若松市卓球協会）

中島 静（会津若松市卓球協会）

〈相双支部〉

牧野善次郎（元 理事）

井上 六郎（元 理事）

鎌田 益實（元 理事）

梅原 實（元 相馬市卓球協会会長）

佐々木政喜（元 相馬市卓球協会理事長）

横山 芳茂（相馬市卓球協会副会長）

伏見 利博（相馬市卓球協会副会長）

鈴木 誠一（相馬市卓球協会理事長）

佐原 英夫（相馬市卓球協会）

小泉 直人（相馬市卓球協会）

高玉 忠利（相馬市卓球協会）

長谷川幸一（小高卓球協会）

佐藤 春夫（富岡町卓球協会）

〈いわき支部〉

鈴木 理介（いわき卓球協会副会長）

吉田 武（いわき卓球協会）

宮田 英夫（いわき卓球協会）

佐藤トミ子（いわき卓球協会）

佐藤 富弘（いわき卓球協会）

高萩 光二（いわき卓球協会）

坂本 良弘（いわき卓球協会）

鈴木 栄喜（いわき卓球協会）

武田喜美男（いわき卓球協会）

【福島県卓球協会設立 70 周年記念誌の刊行】

これまで、本協会の沿革や支部協会並びに加盟団体の組織・活動の状況等について集大成したものは残念ながらない。

協会設立70周年を迎えたのを機に記念事業のメーンとして、70周年のあゆみをまとめておこうという気運が高まり、記念誌の編纂・刊行について検討することになった。

平成9年1月に開催された定例理事会において、平成9年6月11日、宇賀神喜剛を委員長とする17名から成る「福島県卓球協会設立70周年記念誌編纂委員会」をスタートさせ、記念誌の編纂刊行に取り組んだ。

「福島県卓球協会設立70周年記念誌」編纂の概要は次のとおりである。

☆基本方針について

- 1 福島県卓球協会の70年にわたる足跡を全体的な視野から集大成し、「福島県卓球協会設立70周年記念誌」として編纂・刊行する。
- 2 福島県卓球協会並びに各支部及び加盟団体の組織活動の状況、役員、功労者、活躍選手を中心に編纂する。

☆内容構成について

巻頭言、グラビア、に続いて

第1部 福島県卓球協会史（第1節～第5節）

活動のあゆみ、歴代役員、組織及び役員構成、全国大会の開催、活躍した選手、功労者

◇座談会（第1部・第2部）

◇特集：第50回「ふくしま国体」

◇特集：第31回 全国身体障害者スポーツ大会「うつくしまふくしま大会」

◇特集：第53回 全国高等学校総合体育大会

◇回想

◇記念誌に寄せて～役員のパージ

◇各団体の活動

第2部 福島県卓球協会設立70周年記念事業（第1節～第2節）

・実行委員会の設置と活動

・記念事業の概要

第3部 福島県卓球協会各支部の組織と活動（第1節～第6節）

・県北・県中・県南・会津・相双・いわき

第4部 福島県卓球協会加盟団体の概要（第1節～第6節）

・高体連・中体連・教職員・実業団・家庭婦人・ベテラン会

第5部 資料

・協会編・加盟団体編

以上の5部構成として、総ページ数257ページ、発刊部数は1,000部である。

——福島県卓球協会シンボルマーク——

平成11年、本協会設立70周年を記念して公募したもので、喜多方市さつきが丘137にお住まいの渡部真喜子さんの作品です。

図柄は、ふくしま県の「ふ」をモチーフにだれでもが手軽に楽しめる卓球を親しみやすく表現したものです。

【福島県卓球協会シンボルマークの公募】

シンボルマークを持たない協会は、県内でも少なく設立70周年記念事業として公募による作成を実現させようという意見がまとまり、次のような「募集要項」を作成し公募を行った

募集要項の概要は次のとおりである。

- 募集作品は、21世紀に向けて卓球競技の普及振興と競技力の向上を担う福島県卓球協会にふさわしい内容であること。
- 用紙のサイズは、B5版白紙でデザインの大きさは、10cm×10cm以内、簡単な説明を入れる。
- 一人3点までで、自作、未発表のものに限る。
- 入選作1点には、賞状と副賞3万円、佳作3点には、賞状と副賞1万円を送るというもので、広く県民への周知を図るため、福島民報社、福島民友新聞社各紙への掲載を依頼し協力をお願いしたほか、各種大会の開催時に参加募集要項を準備して、参加へ応募を呼びかけた。寄せられた応募作品86点については、平成11年7月18日（日）常任理事会において作品審査を行い決定した。

入選は喜多方市にお住まいの主婦、渡部真喜子さんの作品で、佳作には東京都在住鈴木智子さんと岳陽中学校1年生の角田仁美さんの作品が選ばれた。

【福島県卓球協会旗の作製】

上記で決定したシンボルマークを基に「福島県卓球協会旗」を各支部協会に各1旗（6旗）、県卓球協会本部に1旗の計7旗を作製した。

※単価25,000円×7旗＝175,000円